



日本証券アナリスト協会
GIPS セミナーシリーズ第5回

検証を受ける際の実務的留意点

リスク管理グループ 品川 あづみ

DIAMアセットマネジメント株式会社

商号等 / DIAMアセットマネジメント株式会社

(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号)

加入協会 / (社)日本証券投資顧問業協会、(社)投資信託協会

2011年4月27日

※巻末記載の注意事項を必ずお読み下さい。

I. DIAMアセットマネジメントとGIPS

1. DIAMアセットマネジメント 会社概要
2. DIAMアセットマネジメントにおけるGIPS対応の概要

II. 検証の実務(DIAMアセットマネジメントにおける実務例)

1. 検証の流れ、概要
2. 検証時の具体的対応
3. 検証をスムーズに受ける工夫・注意点

III. 検証の効果的な活用

1. 検証の現状認識
2. 検証の活用・位置づけ

I . DIAMアセットマネジメントとGIPS

1. DIAMアセットマネジメント 会社概要
2. DIAMアセットマネジメントにおけるGIPS対応の概要

I.1. ① DIAMアセットマネジメント 会社概要

DIAMアセットマネジメントは、1999年10月、第一ライフ投信投資顧問、興銀NWアセットマネジメント、日本興業投信の3社が合併して設立された資産運用会社です。

合併により、年金をとりまく新しい社会・経済環境に対応し、高品質のサービスを実現できる体制を整え、専門性の高い資産運用会社として、年金、機関投資家、個人の皆さまから高い評価をいただいております。

FOR THE CUSTOMER

～ お客さまと社会に貢献する資産運用会社 ～

- DIAMはお客さまとの長期的な相互信頼関係を最重要と考え、行動します。
- DIAMはクオリティーの高い商品・サービスを創造し、ご提供します。
- DIAMは常に最高水準のプロフェッショナル組織を目指します。

■沿革

第一ライフ投信投資顧問

85年 7月 設立
87年 6月 投資一任業務認可
98年 2月 投信業務開始

興銀NWアセットマネジメント

85年10月 設立
87年 6月 投資一任業務認可

日本興業投信

94年 7月 設立

興銀第一ライフ・アセットマネジメント

99年10月 第一ライフ、興銀NWアセットマネジメント、日本興業投信の3社合併により誕生

DIAMアセットマネジメント

08年1月「DIAMアセットマネジメント(DIAM Co., Ltd.)」に社名変更

I.1. ① DIAMアセットマネジメント 会社概要

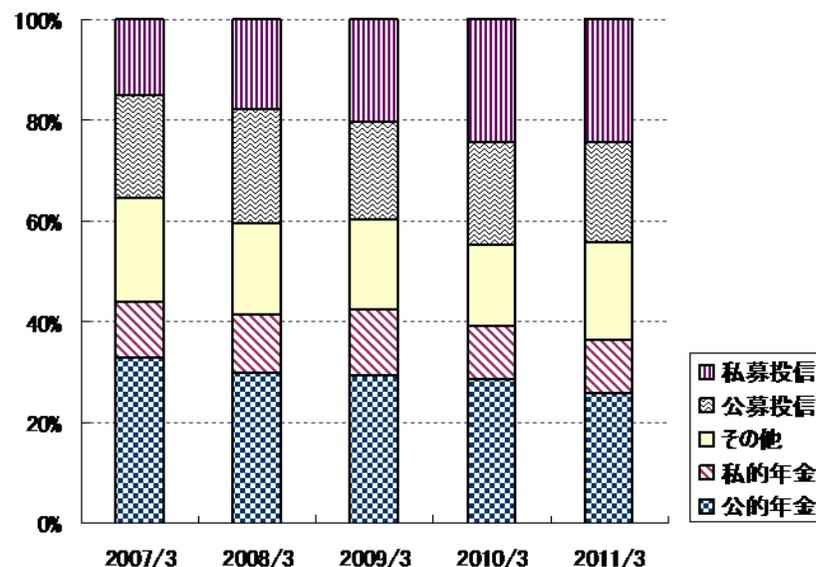
■ 受託残高

投資一任受託残高	4.5兆円	(2011年3月末現在)
投信純資産残高	4.4兆円	(2011年3月末現在)

■ 主な受託資産内容(資産別)

バランス型
国内株式
国内債券
外国株式
外国債券
国内REIT
海外REIT
各種オルタナティブ商品
その他

■ 顧客別残高構成 (2011年3月末現在)



■ ご参考 会社プロフィール

● 会社名	DIAMアセットマネジメント株式会社 (英文呼称) DIAM Co., Ltd.	● 株主構成	第一生命保険株式会社 50% 株式会社みずほフィナンシャルグループ 50%
● 所在地	東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビルディング5階	● 金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第324号
● 資本金	20億円 発行済株式数 24,000株	● 加入協会	(社)日本証券投資顧問業協会、(社)投資信託協会

I.1. ② DIAMアセットマネジメント 会社概要／ネットワーク

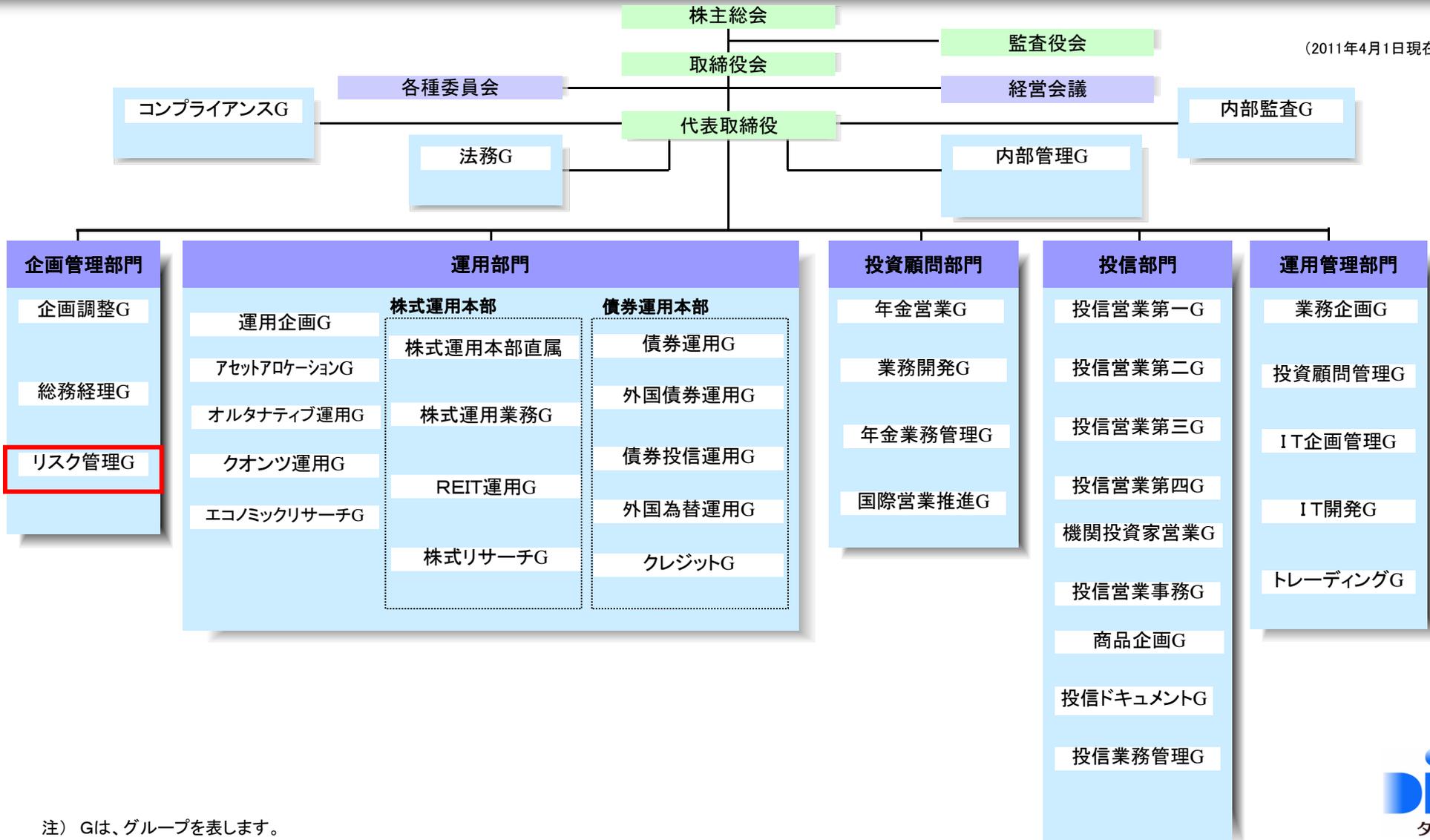
■DIAMのネットワーク

DIAMは、運用力の強化、グローバルな分散投資を図るため、100%出資による子会社をロンドン、ニューヨーク、シンガポール、香港に有しています。



I.1. ③ DIAMアセットマネジメント 会社概要／組織図

(2011年4月1日現在)



注) Gは、グループを表します。



■DIAMアセットマネジメント GIPS プロファイル

●会社の運用資産総額 約8.9兆円 (2011年3月末現在)

●対象のファンド、口座数

投資顧問： 投資一任口座 約335口座
投資信託： 投資信託口座 約330口座 (2011年2月末現在)

●コンポジット数

投資一任コンポジット： 約183コンポジット
投資信託コンポジット： 約330コンポジット (2011年2月末現在)
各資産クラス、プロダクト、戦略別等にコンポジットを構成

●GIPSへの準拠表明

2001年度～ (SAAJ IPS)

●独立した第三者による検証

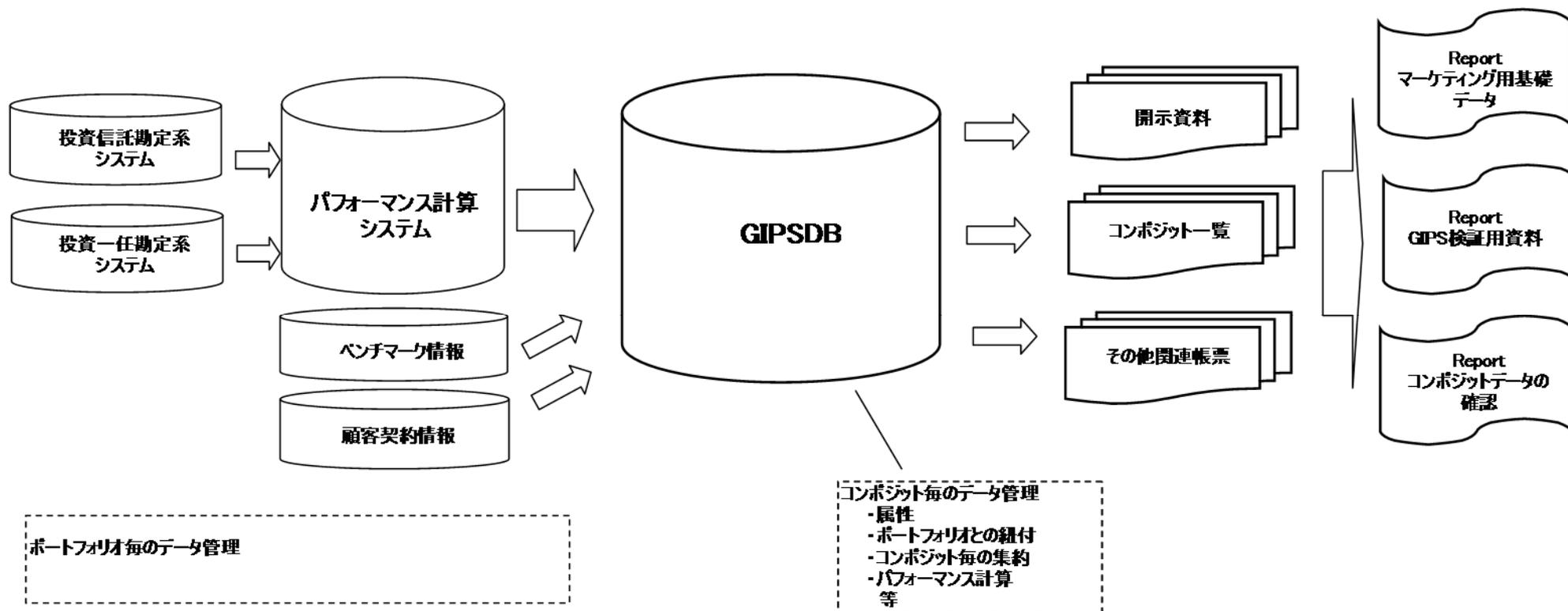
1998年4月1日以降2010年3月31日の期間 について検証を受けている。

■GIPS対応業務:リスク管理グループの役割

リスク管理グループの役割

- GIPSの会社の定義
- コンポジットの構築、維持
- 個別口座のコンポジットへの紐付
- GIPS準拠パフォーマンスの作成、管理
- GIPS基準変更等のフォロー
- ドキュメント等の維持管理
- 検証の対応、取りまとめ

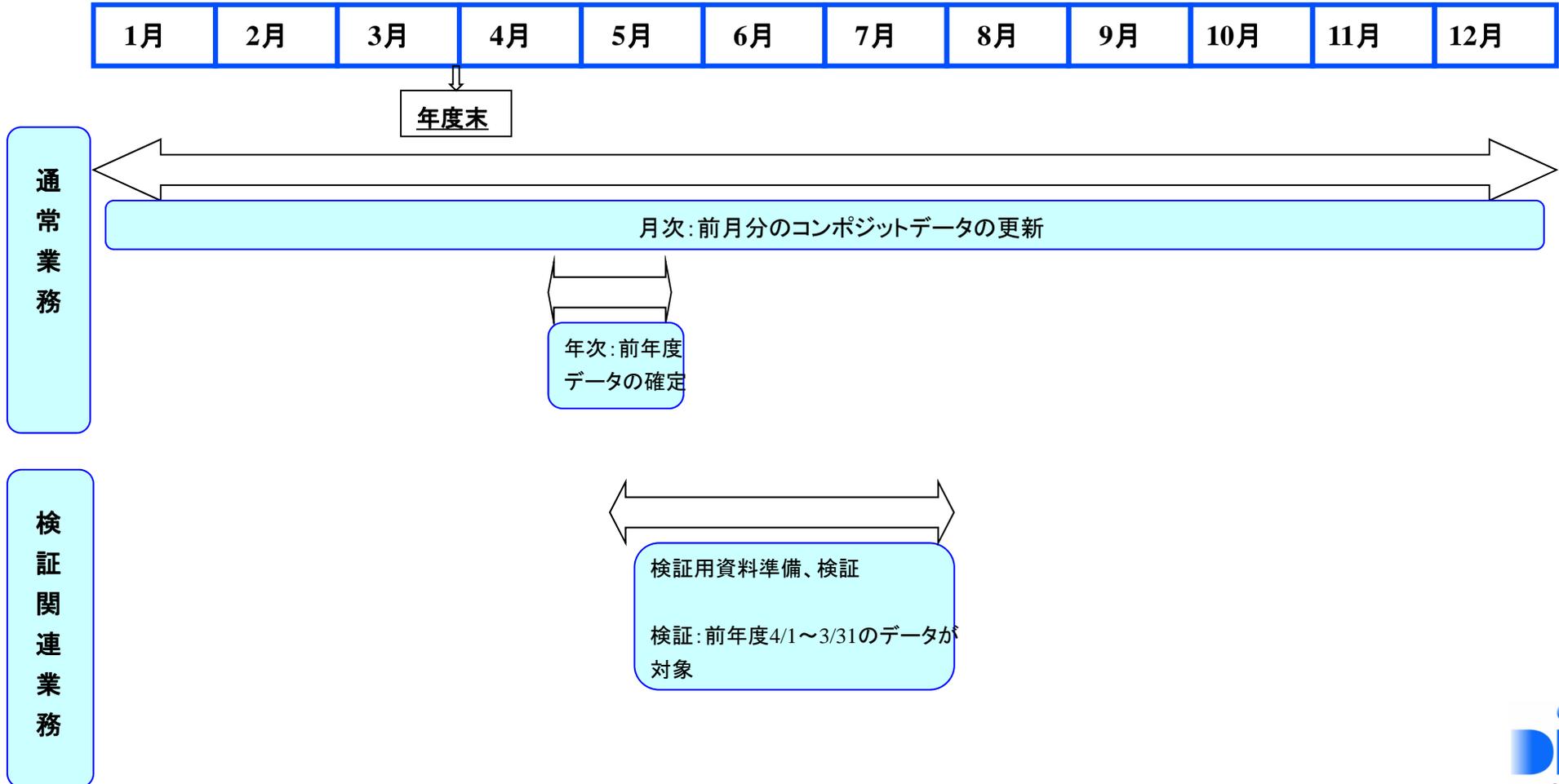
■GIPS データの流れ



Ⅱ. 検証の実務(DIAMアセットマネジメントにおける実務例)

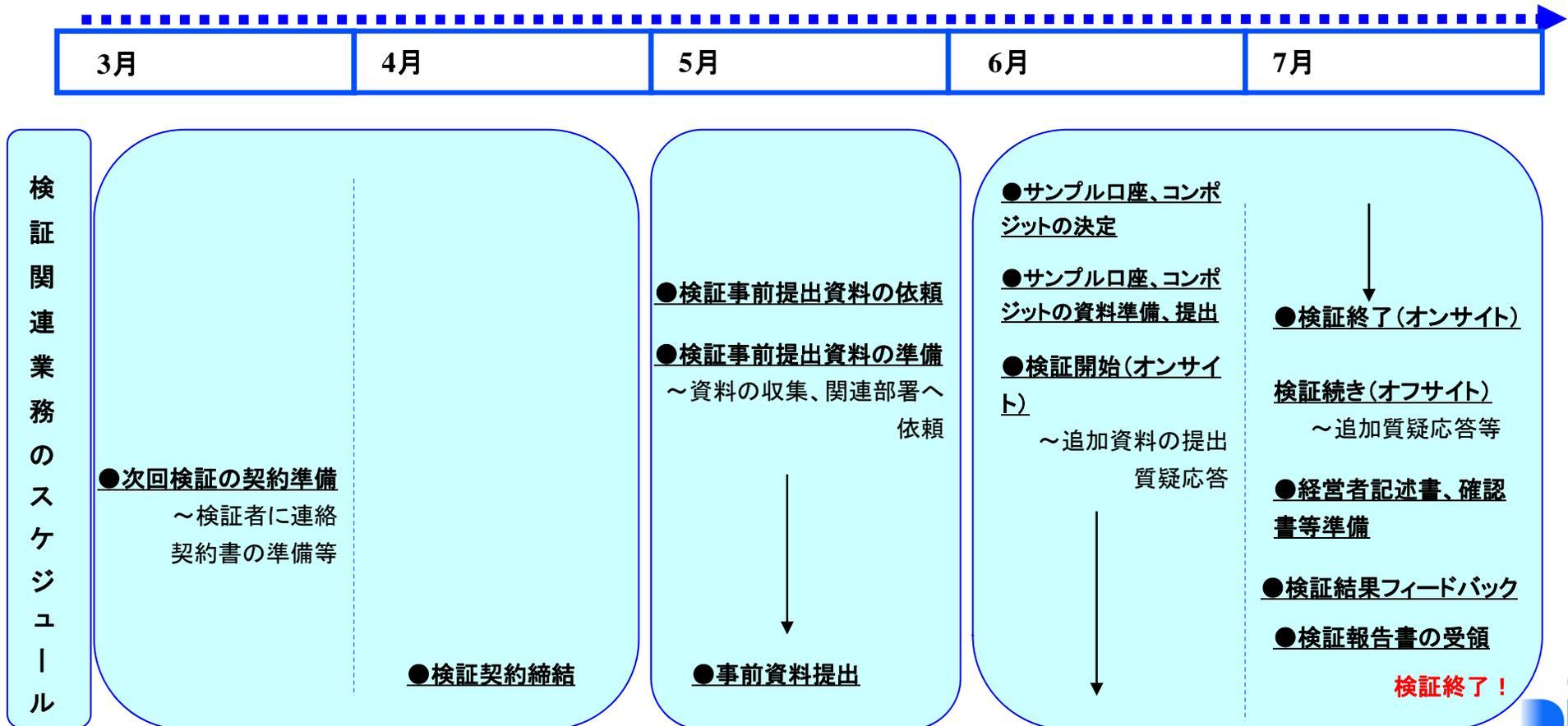
1. 検証の流れ、概要
2. 検証時の具体的対応
3. 検証をよりスムーズに受ける工夫・注意点

■GIPS対応業務と検証のスケジュール



II.1. ② DIAMアセットマネジメントにおける実務例／検証の流れ・概要

■ GIPSの検証を受ける流れ



■具体的対応／検証に際して準備するもの

GIPSの検証の目的

- 会社が、コンポジット構築に関するGIPS基準の必須事項のすべてに会社として準拠しているかどうか。
- 会社の方針と手続きが、GIPS基準に準拠してパフォーマンスを計算し、提示するよう設計されているかどうか。

検証に際して提出する資料、データ

- ①具体的に、個別ポートフォリオ、GIPSのコンポジット、会社状況を把握するためのデータ・資料
- ②それぞれの管理基準書、方針・手続き集(業務毎)
- ③管理方針、業務の実施状況の分かる証拠

	①データ・資料(例、主要なもの)	管理所管
サンプル口座	契約書・報酬 ガイドライン・受託プロダクト 取引、残高、時価情報	営業関連G 営業関連G 投資顧問管理G 投信業務管理G
GIPS／コンポジット コンポジットの網羅性 サンプルコンポジット	月次コンポジットパフォーマンス、時価残高、散らばりの測度等 コンポジットファンド全月対応一覧 コンポジット一覧表 ベンチマーカー一覧表 開示資料 新設、閉鎖コンポジット コンポジットの登録マスター	リスク管理G
会社	組織体制図 事業報告書、計算書類	企画調整G 総務経理G

注) Gは、グループを表します。ダイアム

II.2. ② DIAMアセットマネジメントにおける実務例／検証時の具体的対応

■コンポジットの確認帳票のサンプル（コンポジットファンド全月対応一覧）

			年月			2011年1月			2011年2月		
コンポジットID	コンポジット名称	FundNo	2010年4月			計算対象	時価	Return	計算対象	時価	Return
			計算対象	時価	Return						
EQJ12345	国内株式AA型	1111	1	51,651	1	1	48,131	1.84%	1	50,254	4.41%
		1112	1	8,285	1	1	7,563	2.46%	1	7,922	4.74%
		1115	1	10,410	1	1	9,879	2.48%	1	10,344	4.41%
		1119	2	2,787	0	1	2,641	2.46%	1	2,766	4.72%
EQJ12346	国内株式BB型	1150	1	19,576	0	1	18,182	1.16%	1	18,994	4.74%
		1140	1	554	0	1	519	2.46%	1	544	4.81%
		1170	1	879	0	1	823	2.46%	1	863	4.77%
		1199	1	1,911	0	1	1,791	1.14%	1	1,876	4.74%
		1250	1	1,670	0	1	1,565	1.15%	1	1,639	4.73%
		1450	1	2,104	0	1	1,963	2.46%	1	2,056	4.74%
		1660				1	1,029	1.16%	1	1,078	4.74%
		1444				1	1,232	1.15%	1	1,291	4.77%
		1345				1	1,012	2.46%	1	1,059	4.74%
		1389	1	7,217	0	1	6,784	2.46%	1	7,102	4.69%

		2010年4月			2011年1月			2011年2月		
FundNo	コンポジットID	計算対象	時価	Return	計算対象	時価	Return	計算対象	時価	Return
662608	EQJ15000	1	3,301	-0.00%	1	5,443	0.56%	1	5,443	0.00%
662609	SBJ25011	1	5,034	0.00%	1	4,975	0.10%	1	4,992	0.34%
662704	SBJ25022	1	7,138	0.00%	1	5,888	1.23%	1	6,154	4.52%
664202	EQJ16001							2	2,585	3.23%
	EQG15001	1	2,663	0.00%	1	2,504	1.50%			
665804	EQG15001	1	1,969	0.00%						
	SBG35015				1	2,645	-5.49%	1	2,610	1.04%

※巻末記載の注意事項を必ずお読み下さい。

■ 具体的対応／検証をスムーズに受ける工夫・注意点（準備編）

◎コンポジット管理は、月次で行う。帳票は月次で作成しておく。

⇒検証用に、わざわざデータを用意するのではなく、月次でコンポジット管理を行い、レポートを作成しておく。

◎ドキュメント類の整備、更新しておく。

⇒特に、基準の変更等は、随時フォロー。ドキュメントの更新、実務への反映を行う。

⇒変更点を明らかにしておく。

◎検証用の資料の準備は、会社全体での取組みが必要

⇒GIPS関連の情報のみならず、ファンド管理、契約情報、会社に関する情報等を検証時に提出。

⇒特に、GIPSの検証を担当する当事者以外のグループに、検証用資料の作成、準備を依頼するケース。

⇒**GIPSに対する会社内の認知、認識を高める！**

◎GIPS以外の検証や監査の活用を検討する。

⇒投資一任の内部統制の確認は、SAS70^(注)の検証対応と一部内容重複

⇒投資信託 ファンド監査

(注)2011年度より新基準SSAE16/
ISAE3402に移行予定。

■ 具体的対応／検証をスムーズに受ける工夫・注意点（検証中編）

◎検証中の質疑応答についての記録表を作成する。

⇒いつ／質問者／応答者／質問内容・質問手段／応答内容・応答の方法・提出データ

⇒担当者間での情報共有、次年度以降の検証時の対応に役立つ。

◎検証中、検証者からの質疑は、その場で回答せず、持ち帰る。

◎検証中も、通常業務を忘れずに！

⇒業務分担の確認

◎(引続き)会社全体での取り組みが必要

⇒検証の進捗の情報共有、追加資料の依頼等

◎検証者への配慮

⇒検証者が検証しやすい環境づくりを心がける

■ 具体的対応／検証をスムーズに受ける工夫・注意点（検証後編）

◎「検証終了」をGIPSデータに反映する

- ⇒検証済み期間の開示資料への反映
- ⇒指摘事項のGIPSデータへの反映、遡及修正
- ⇒エラー訂正等の取りまとめ

◎「検証終了」を関連部署へ連絡

◎検証者からのフィードバック事項を検討する

- ⇒次回の検証時に活かせること
- ⇒業務の見直し

◎検証者とのコミュニケーション

- ⇒検証終了後も、コンタクト。変更点等を相談しておく。

Ⅲ. 検証の効果的な活用

1. 検証の現状認識
2. 検証の活用・位置づけ

■ 検証の現状認識

●GIPS準拠において、検証は必須ではない

●検証を受けている運用会社 45社(94%)

検証を受ける予定の運用会社 3社(6%)

2007年8月実施、日本証券アナリスト協会アンケートより

●検証の負荷は増える傾向

- ・グローバルでのGIPS準拠⇒グローバルでの検証体制
- ・運用商品の多様化、受託スキームの複雑化、オルタナティブ商品への拡大
- ・準拠期間の長期化、合併⇒確保するデータの長期化・複雑化
- ・GIPS基準書の変更⇒システム対応、プロセスの見直し、ドキュメントの変更

III.2. 検証の効果的な活用／検証の活用・位置づけ

■ 検証の活用・位置づけ

- 検証を受けることは、ベストプラクティス
- 第三者が、客観的にGIPS準拠について検証をしてくれるチャンス
～運用会社の、GIPS準拠の業務、態勢等の見直しの機会～
検証のフィードバック、指摘事項を活用した例
 - ・コンポジットの網羅性の確認帳票の採用
 - ・プライベートエクイティ、不動産コンポジットの構築
- 検証のために準備をするのではなく、GIPS準拠のために普段から粛々と業務を遂行



顧客、見込み顧客へ提示するGIPS準拠パフォーマンスの質、正確性、妥当性の向上

注意事項

- 当資料は、DIAMアセットマネジメント(株)が独自に作成した資料であり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。
- 当資料は、GIPS検証の情報提供を目的とするものであり、金融商品にかかる投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、DIAMアセットマネジメント(株)が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、弊社が保証するものではありません。また掲載データはあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容はあくまでも作成時点(2011年4月20日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- ベンチマークインデックス等、当資料に掲載されているデータの知的所有権その他一切の権利は、その発行者及び許諾者に帰属します。
- 当資料のいかなる部分も電子的、機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ無断で複製または転送を行わないでください。
- DIAMアセットマネジメント(株)及び説明者は、本セミナー及び当資料の内容に依拠してお客様がとった行動の結果に対し責任を負うものではありません。